

見つけた! 10ユーログルメ



最近、物価の高いミュンヘンで10ユーログルメをご紹介するのが難しくなってきました。そんな中、見つけました! kleine Rose『小さなバラ』となんと謙虚な名前のお店の本当に小さな、ギリシャレストランです。こちらのお店、インターネット上の口コミで、なんと5点満点の評価です。その上、メニューは前菜からメインに至るすべてが10ユーロ以内、0.5Lビールまで、最近のミュンヘンでは不可能に近い、3ユーロというお値段です。これはオーナーの意地を感じさせます。すばらしい!

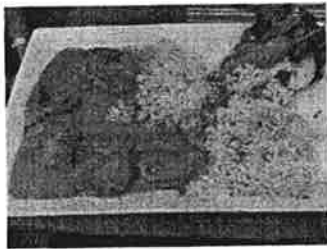
今回頂いたのは、Tigania (豚フィレ肉のグリル Metaxa ソースのライス添え) と、Caramares (イカのフライ Tzatziki とサラダ添え) の2皿。お肉の方はカレー風味の Metaxa ソースが素晴らしく、Caramares の方も薄い衣のフリットで、脂っぽさはまったくなく見た目はグリルのよう。2種類のサラダとたっぷりの Tzatziki と共に美味しく頂きました。付いてくるパンのスライスも3種類と気の使いよう。これでどちらも9ユーロのお値打ち料金です。食後には一口サイズのデザートが、お会計の後にはアニスの香り



漂うギリシャのお酒、Ouzo ウヅマでサービスされました。やはり、インターネットの評判どおりの味、サービス、お値段とも素敵なお店でした。(はじめは、友達・知人に書かせているんじゃないの〜と疑ってしまいました、ごめんなさい。)

場所はニンフェンブルグ城のすぐ近くで、小さな店内の席と、小さなガーデン席があります。8月の今は、ガーデン席で食事していると、一人、二人と常連さんが集まってきます。1990年代からやっている、近所では有名なお店だそう。隠れ家的なこちらのお店、是非おためしください。あ! ランチはやっていません。毎日18時からオープンです!

Kleine Rose
 Gaßnerstr. 3
 80639 München
 Telefon: 089/14332493 (Reservierungen bitte nur telefonisch!!!)
<http://kleinerosse.com/Kontakt-Anfahrt>



バイエルンで活躍する日本人 (第18回) 天文学者 小松英一郎さん

プロフィール

兵庫県宝塚市出身。
 東北大学理学部卒業、博士号取得。
 米国プリンストン大学博士研究員、
 テキサス大学教授
 アメリカ在住13年の研究生活をへて現在、ミュンヘン郊外ガルヒングのマックス・プランク宇宙物理学研究所所長
 東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構の客員上級科学研員も併任。
 西宮湯川記念賞(2010年)、グルーパー宇宙論賞(2012年) 日本天文学会林忠四郎賞(2015年)・・・など、国内国外で国際的な賞を多数受賞。



◎この研究を志したきっかけは何ですか

物心ついた時から両親が買い与えた本に囲まれていて、かたっぱしから読み漁っているうちに読むものがなくなり、図鑑まで読むようになりました。植物や生物、化学など、順番に読んでいって、小学校5年生の時、天文学の図鑑にたどり着きました。それを読んでいて、見開き1ページを使ったオリオン座大星雲のカラー写真を見た時、星でも惑

星でもない「星雲」というものの不思議さと、その美しさに心を奪われて、その時に、将来は天文学者になろうと決めたことを覚えています。その後は、神戸市にある青少年科学館のプラネタリウムに通いつめて、宇宙への思いを育んでいきました。

◎宇宙物理学ときくとずいぶん範囲が広いようですがどんな分野が専門ですか

僕は宇宙の始まりと終わりを研究しています。

そういうと、空想ばかりで適当なことをやっていると思われるかもしれませんが、確立された物理学の理論と、精密な天文学の観測データを用いて研究しています。光には速さがあるので、遠くを見ると昔の姿が見えます。例えば太陽の光が地球に届くには8分もかかるので、今見えている太陽の姿は8分前のものです。今この瞬間に太陽がなくなっても、8分間は気づきません。

銀河系のお隣のアンドロメダ銀河までは230万年かかります。このようにして、遠くのものはずっと見ていたら、思いがけず宇宙の始まりまで見えてしまった、というわけです。

というわけで、毎日、宇宙の始まりの姿を望遠鏡で撮影した写真を解析して、宇宙の始まりがどうであったかを手取るように研究しています。

◎この研究でおもしろいこと、苦労するのはどんなところですか

宇宙は何歳か、何でできているのか、どうやって始まったのか、どうやって終わるのか。これらはすべて、僕たちの研究ですでに明らかにしたか、これから15年間くらいで明らかにできると考えていることです。宇宙オタクにとってみれば、こんな面白いことはありません。技術の進歩と、物理学の理論の進歩によって、今まさに可能になった研究です。例えば僕が20年早く生まれていたら、このようなエキサイティングな宇宙研究の場にはいらなかったと思うと、本当に幸運です。そんな面白いことの前には、苦労なんか何も感じません。毎日楽しく研究させていただいています。

◎アメリカでの研究生活と比べてドイツはいかがですか

アメリカは科学大国ですが残念ながら科学関係の予算はどんどん削られています。一つの理由は、政治家が科学の重要性を軽視しているからです。オバマさんはマシですが、彼がいくら予算をつけようとしても、議会が承認しないとどうにもなりません。想像できないかもしれませんが、恐ろしいことに、アメリカの議会の政治家には科学的な思考は有害だと考える人がたくさんいるのです。たとえば、進化論を認めず、神が地球を作った、地球温暖化は人間のせいではない、などと科学を否定するような人もいます。

研究業界は競争も激しく研究費を確保するのも大変で短期で成果を出さないと評価されにくいです。この研究の目的は何だ？早く成果を出せ、とお上から色々言われるし、素晴らしいテーマがいっぱいあっても採択されるのは10パーセントぐらい、政治スキャンダルなどがあると即予算も削減されたり、厳しい面がありますね。一方、アメリカには一流の科学者も多いので、そのギャップは興味深いところですね。つまり、こんな環境でよく一流の成果を出せるな、という率直な驚きです。

その点ドイツはちがいます。予算が安定していて好きな

ことをさせてくれる、基礎科学に投資するのは当然という考えがあるので、すぐ役立つ天文学の分野でも予算を投じ研究させてくれます。100年以上前からの科学技術大国としての伝統をもつドイツの政府、バイエルン州、そして何よりも納税者の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

◎日本人として有利な点、不利な点はありますか

日本人として有利、というか、外国人なので、少しくらい失礼なことを言っても、「ああ、言葉が不自由だからしょうがないね」と大目に見てもらえるのはラッキーだと思います。(しょうもないことですみません。) 不利な点は、今のところ、特に感じません。僕のような外国人に、研究所の所長を任せてくれるマックス・プランク研究所はすごいと思います。

◎ドイツの受け入れ、待遇(尊敬、歓迎、不親切)について

所長という立場で請われて来たので、待遇は申し分ないものでした。博士号を持つ研究者をちゃんと評価してくれるドイツは居心地が良いですね。日本やアメリカで博士号を持っていると言ったら、哀れみの目で見られることでしょう(笑)。これだけ世界的に不況といわれて、どの国でも研究費が削られるなか、ドイツの研究費は毎年あがっているのです。信じられますか?!。科学の大切さが国民に広く浸透している、という意味では日本やアメリカと雲泥の差があります。

定時に帰るのが当然という雰囲気があり、土・日にはメールをしない、休暇を取るのは当たり前ということで、アメリカに比べて生活の質(Quality of Life)はずいぶん向上しました。暑いテキサスから来たので気候的にもドイツは快適で住みやすく、特に仙台出身の妻は満足しています。

◎自分を日本人と思うときはどんなときですか

ビアガーデンで焼き魚を見るとテンションが上がるとか、野球をしてる時が一番楽しいとか、そういう時ですね。

◎これからやりたいこと、この先の夢はなんでしょう

とにかく、これから15年間で、宇宙の始まりと終わりを解明したいです。

宇宙の終わりに関しては、宇宙の大部分を占めるエネルギー「暗黒エネルギー」の正体を解明しなければ、宇宙は単にこれから膨張し続けるだけなのか、それともいずれ宇宙全体が引き裂かれて(!)終わってしまうのかわかりません。これを解明するため、米国テキサス州の望遠鏡や、ハワイのすばる望遠鏡を用いて研究しています。定年後は、ドイツ最古のビール醸造所であるヴァイヘンシュテファンの、ミュンヘン工科大学の醸造学科で学位を取ったら良いな、と夢見ています。それまでに肝臓が壊れていなければ、の話ですが。あと、ピアノが趣味で、はやくベートーベンの月光ソナタ第3楽章を弾けるようになりたいです。

◎これから物理学者を目指す後輩たちへの助言をお願いいたします

とにかく物理が好きで、金でも名誉でもなく、「好き」がなによりの原動力です。僕がここまで来たのも、とにかく好きだったから。好きなら自分のやりたいこと、知りたいことがわかってくるし、それがあればがんばれると思います。NHKに「プロフェッショナル 仕事の流儀」という番組がありますが、そこに出演する第一線で活躍する人は、分野を問わず、自分の仕事が好きで好きで好きで好きで仕方がない人ばかりですね。

僕にとって楽しいことを報酬もらってやっているのだからありがたいと思っています。納税者の皆さん、本当にありがとうございます。

◎日本人会員の皆さんへのメッセージ

外国暮らしというのは何かとストレスが多いものです。僕が、日本、アメリカ、ドイツに住んだ経験から言うと何事もおおらかに構えたほうがラクですね。色々な人間がドイツに集まってくる、その人の育った文化も背景も違う。違いにぶつかった時、いちいちそれに腹をたてるのではなく、違うのは当たり前で、むしろ違いを楽しむことが、日々の生活を豊かにすると思います。定年退職まであと25年、今の研究所で勤めあげる予定なので、どこかでお会いするかもしれません。その時はどうぞよろしく願いいたします。

お忙しいところをありがとうございました。これからのさらなるご活躍を祈ります。

取材、構成 山田敏恵



ベッカー先生の診察室 ～こんな病気、こんな症状

「ドイツで病気になったら 怪我をしたら」

<ドイツでの虫刺されについて> :1) Wespen

8月中旬を過ぎ、朝晩寒いくらいに気温が低下してきた。日中の気温も25度を越えることがなくなり、そろそろ秋を感じ始めたここ数日、虫刺されで来院される方が急に増えはじめた。症状は、典型的な、腫れ、痛み、かゆみに代表され、時には顔をさされて人相が変わってしまった人もいるくらいだ。

ドイツで生活を始めると、始めは夏はさほど暑くなく短いため、虫も少なく、蚊に刺されることは稀だし、刺されても大したことはない、と思いがちだ。ところが、ミュンヘンに住んでいると、日本の都会では考えられないような虫に刺されることがよくある。刺された箇所も、顕著に赤く腫れたり、非常に強い痒くて熱を放ったり、何に指されたのかも不明だということも多い。ミュンヘンの方が、都会といっても自然が近く、農家もまだまだ多いということもあるが、刺す虫の種類も日本の都会で暮らしているよりも多いことに気がつく。刺す虫としては、吸血を目的とするものと、自衛のために刺すものがある。

1) 吸血目的：飛来する虫：蚊 (Stechmücken)、ブヨ (Kriebelmücken)、アブ (Bremsen)、這ってくる虫：ダニ、のみ、しらみ、等

2) 攻撃された場合毒針で刺す：ミツバチ (Bienen)、マルハナバチ (Hummel)、スズメバチ (Wespen)、大スズメバチ (Hornissen) 等

今回は、ドイツの夏が終わりに近づきつつ、急に攻撃的になってきたウエスペン Wespen に関して書きたいと思う。Wespen と Bienen は外見的に良く似ているが、よく見ると Wespen のほうが体が細長めで黄色と黒の模様がはっきりしており、Bienen の体は短めでやや茶色いのがわかる。この時期、ビアガーデンや外で食事をしていると、この Wespen がどこからともなく、食べ物や飲み物を目指して飛でくる。夏も終わりに近づくと Wespen の趣向がかわり、特に糖質を好むようになるとも言われている。少しくらい手で払おうとしてもまったく逃げることなく執拗に飛来を繰り返し、場合により数匹で飛来し、もう食べているところではなくともある。この Wespen は Bienen のように刺したら死ぬということではなく、むやみに手で払ったりすると攻撃されていると思われ、刺される危険性がある。刺されたら痛いだけではなく、アレルギーを持つ人間は場合によってアナフィラクシー等のショック反応を起こす可能性もあるため注意が必要だ。

ではこのやっかいな Wespen と共存するためにはどうすべきか、ドイツ自然保護団体の奨励は：

- 自分に向かって飛んできてあわてないで、急激な動きをしない、手で払う動きは鳥の羽に似ているため、攻撃性を刺激する可能性がある。
- ふーっと息を吹きかけて追い払おうとしてはいけない。息の二酸化炭素が攻撃性をさらに刺激する。
- 近くの机の上にとり用の香りの強い、果物や肉やジュース